

5 洪水(浸水)災害①

毎年起きている洪水災害や土砂災害の主な原因は、雨によるものです。

近年の異常気象の影響で、今まで被害の無かった地域も台風が通過したり、大雨で河川が氾濫したりして、甚大な被害を受けています。気象情報やお住まいの地域の防災情報などに注意して、早めの対応をしましょう。

雨の降り方と強さのイメージ

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
 <p>1時間に 10~20 mm未満</p>	 <p>1時間に 20~30 mm未満</p>	 <p>1時間に 30~50 mm未満</p>	 <p>1時間に 50~80 mm未満</p>	 <p>1時間に 80mm~</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ザーザーと降る ■地面一面に水たまりができる 	<ul style="list-style-type: none"> ■どしゃ降り ■傘をさしていてもぬれる 	<ul style="list-style-type: none"> ■バケツをひっくり返したように降る ■道路が川のようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ■滝のように降る ■傘は全く役に立たなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ■息苦しくなるような圧迫感がある

線状降水帯による洪水・土砂災害

近年洪水や土砂災害を起こしている原因として、「線状降水帯」という言葉が盛んに使われています。大災害を引き起こすことも多く、天気予報でも発生が伝えられるようになりました。

線状降水帯とは

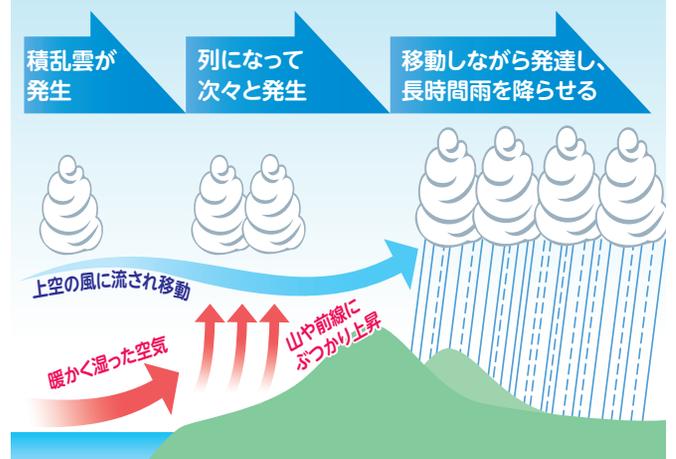
同じ場所で積乱雲が次々と発生して帯状に連なる現象で、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をともなう雨域をいいます。

日本で起きた集中豪雨事例の約3分の2で線状降水帯が発生していたとされています。

気象庁ホームページ
「線状降水帯に関する各種情報」



線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



水害の種類と発生の仕組み

大雨がもたらす災害は、河川の氾濫だけではありません。

災害が起きる前に、自分の地域にどのような水害の危険性があるのか確認しましょう。

外水氾濫(洪水)

大雨等で河川の水位が上昇し、堤防が決壊したり、河川の水が堤防を越えたりすることにより起こる氾濫を外水氾濫(洪水)といいます。



内水氾濫

雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することを内水氾濫といいます。



水位情報はこちらのWEBサイトで確認できます。

青森県河川砂防情報提供システム

検索



河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。

